

閉会のあいさつ

所長 杉万俊夫（京都大学教授）

閉会のあいさつを述べさせていただきます。今日は、長時間にわたりまして、公開シンポジウムにご参加いただき、ありがとうございました。

私は、昨年4月に前任の吉田から、研究所所長のバトンタッチを受けました。今までも毎回、公開シンポジウムには登壇しておりましたが、バトンタッチを受けて今回は最初の公開シンポジウムでしたので、ここは自己紹介を兼ねて、自分自身で展開してきた理論を前面に打ち出してみようと思い、「かや」の理論をテーマに取り上げました。

集団力学は、さまざまな現場の方々と研究者が協同的实践を展開する学問です。では、その協同的实践での私たち研究者の役割は何かと言いますと、現場の方々がいろいろ悩んだり考えたり、あるいは将来を構想される時に使用できるボキャブラリーを豊かにすることに尽きると思います。今日のシンポジウムを通じて、「かや」という言葉が、職場や組織について皆さん方がお考えになる時のボキャブラリーの一つとして追加されれば、今日のシンポジウムの価値はあったと思います。

まだ少し時間がございますので、3点だけ集団力学研究所の近況報告をさせていただきます。

ご承知のように、今、公益法人制度の改革が進行中です。これには5年間の過渡期が設けられています。今、2年3ヵ月が過ぎたところです。公益法人には財団法人と社団法人がありますが、これを公益の財団・社団法人と一般の財団・社団法人に分けようというわけです。一旦、すべての財団・社団法人を、一般財団・社団法人に格下げし、そこからスクリーニングをして公益性が認められる法人だけを、公益財団・社団法人として認定することになっています。多くの法人は、まだ様子見の段階のようですが、集団力学研究所は、県庁の窓口が混雑しないうちに早めから準備を始めました。いざ準備を始めると結構時間がかかりましたが、おかげさまで、申請作業についてはほぼ完了することができました。予定どおり進めば、本年10月には、公益財団法人として新しいスタートを切ることになります。

近況報告の2つ目に移ります。当研究所は、集団力学に関する教育普及、研修にも取り組んでいます。すでに印刷物も出版していますが、この時代ですからパソコンやテレビでDV

Dを見ながら勉強したいという方も多いと思います。そこで、昨年約半年をかけて、DVD講座「集団力学」を作成いたしました。今日お手元にPRのチラシが配布されておりますが、全7回（1回30分）の第1回目（入門編）はYouTubeで無料公開しております。集団研究所のホームページでもご覧いただけますので、ご関心のある方はぜひアクセスしてください。

最後に、先ほども申しあげましたが、私、1月後半にスーダンに行っていました。スーダン南部の分離・独立をめぐる状況を把握しておきたいというのが最大の目的でしたが、川原尚行さんという40歳くらいのお医者さんと会うことも目的でした。九大の外科を出たお医者さんです。水口さんと一緒に、とにかく外国に行きたい、それなら外務省だということで、外務省に入りまして、大使館付きの医務官になりました。最初がケニア、次にスーダンに赴任しました。今でこそスーダンは石油輸出国になり、だいぶ豊かになりつつありますが、川原さんがスーダン大使館にいた10年ひと昔前まで、スーダンは最貧国の一つでした。彼は、町中や田舎に出て行って惨憺たるありさまを目にしました。そして、「これは、もう、ほっとけん」というわけで医務官を辞め、スーダン東部でクリニックを自力で作って医療活動を開始しています。もう5年間くらい経ちます。彼がそういうことを始めたものですから、奥さんは、2人の子どもを抱えて大変です。小学校の非常勤教師を始めたとのこと。そこで、われわれとしても同じ福岡県出身である川原さんを何らかの形で応援したいと思っています。おそらく5月か6月くらいになると思いますが、集団力学研究所の主催で川原さんの講演会を開催したいと考えています。計画がはっきりしましたら、また皆様にもアナウンスをさせていただきますので、ぜひご参加いただけましたら幸いです。

以上、この場を借りて、集団力学研究所の近況を報告させていただきました。どうぞ、今後とも、集団力学研究所の活動にご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

スーダン東部で訪問診療する川原医師



「写真：内藤順司」

震災直後から被災地（宮城県名取市）へ入り巡回診療やがれき撤去をする川原医師



仮設住宅の集会所で「寺子屋」を開設し、学習支援



家庭のがれき撤去が「心のケア」に